
この物語はフィクションです

青木弘樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この物語はフィクションです

【Nコード】

N1783Q

【作者名】

青木弘樹

【あらすじ】

この物語はフィクションです。登場する人物はすべて架空のものです。手に入れたお金は最終的にどうなるのでしょうか…??

作：青木弘樹

佐々木ケンジ：主人公

佐々木ケンイチ：ケンジの兄

俺は今、大金を持って路上に立っている。天気は晴れ。

どうも、こんにちは。俺は佐々木ケンジ。29歳。といっても、あと3日で30歳になるが。

フリーターで、とくに将来の夢もなし。

両親はいない。二つ上の兄がいるが、ここ数年、連絡も取っていない。兄の名前がケンイチ、そして俺がケンジ。まあ名前なんざあどうでもいいが、もう少しひねってほしかったと思う今日この頃。

29歳でフリーター、つまり人生の負け組み。あんたそう思ったる？甘いな。じゃあ今から言うことをよく聞けよ。

さっきも言ったが俺は今、大金を持っている。額にして数百万だ。紙袋に入っている。偽札なんかじゃない。ほら、これでも負け組かい？

まあこれだけじゃあ何のことだか分からないだろうから、きつちり丁寧に説明してやろう。今後はその日の飯に困ることもない、あんたとは違う人生を歩むことになるんだからな。

どこから話そうか迷ったが、小学生時代までさかのぼってみよう。え？そんなにさかのぼるな？まあそう言うなよ。たぶんあんたとはもう会わないだろうから、ちよつとしたストーリー、ある男の生い立ちってやつを聞いてくれよ。

小学生の頃、俺は足が速かった。学年で一番速かったのさ。そして学校全体では二番だった。じゃあ一番は誰かって？それは俺の兄

さ。歳の差がハンデになったなんて言い訳はしない。悔しいが兄が学校一番で、俺が二番ってわけ。

まあ兄が卒業してからは、俺が一番で、俺が卒業した後の事は知らないけどな。

給食は残さず食べた。時にはまずいおかずもあったが、食べ物を粗末にする奴は人間失格だ。だから残さず食べた。食は生物の基本であり、もっとも大事な要素だからな。

中学の俺はサッカー部だった。足の速さを活かしたプレイヤーとして名をはせた…というような漫画のようなことはなかった。まあ…それが人生だ。

部活自体、2年の途中でやめたしな。とりあえず勉強に専念して、そつなく生きてたよ。音楽をよく聴いていたっけな。

高校では軽音楽部に入った。ギターをやりたいかったんだが、途中からベースをやっていた。あの低音に魅せられのさ。ベースは目立たないポジションだが、ベースのないロックバンドなんか、醤油をかけない玉子かけご飯と同じだ。ベースが芯を支えてる。それが真実だ。

まあ個人的には、玉子かけご飯に醤油がなくてもいけるクチだが。軽音楽部は3年の途中でやめた。就職活動のためだ。大学には行っていない。勉強はもうたくさんだった。まあ頭も良くなかったが、とにかく暗記と数字だけの世界にはうんざりだったんだ。

就職したのはカラオケボックス。最初の一年はアルバイト扱いだったが、後に社員に昇格。昇格つつつても、健康保険だの、厚生年金だのがつくだけ、ボーナスはなかった。給料は増えたが、労働時間も増えた。まあ…世の中そんなもんだ。

そして7年くらい経って店は倒産。店長は行方不明。給料は最後の分までちゃんともらえたけど、まったくついてないぜ…。

倒産する半年くらい前に、かなりかわいいバイト店員が入ってきたのにな。噂じゃその子は今キヤバ嬢らしいが、詳細は知らない。

その後はいろいろバイトを転々とした。

なんとなく、やる気が出なかったから正社員にはならなかった。
欲しい物はそこそこの手に入れたし、そんなに物欲もなかった。例えばテレビは今持つてるのは22インチ。どいつもこいつもでかいテレビを欲しがるが、結局飽きるんだよ。それに後々処分するとき困る。だからドデカイのは買わなかった。部屋も狭いしな。

そして…ここからが本題。ここからがお待ちかね、メインだ。

一ヶ月前のことだ。俺は競馬でもやろうかと競馬場に向かった。それまでギャンブルといえばパチンコあるいはパチスロ。競馬はやったことがなかった。

その日は何となく当たる気がしたんだ。そして狙いをつけた馬に賭け、なんと！1万円が10倍の10万円まで膨れ上がった。ビッグナースラックってやつかな。

その一週間後、パチンコに行ったら7万円も勝った。

そのまた一週間後、パチスロで5万円勝った。

そして…今から二日前、俺は夢を見た。競馬で大穴を当てる夢だ。夢の中では20万円の軍資金を20倍に膨れ上がらせる俺がいた。つまり400万円だぜ。

これはきつと神様のおぼしめしだ。不幸な俺にゴッドブレスが吹き荒れたんだ。

そして…今から一日前…つまり昨日だな。俺は競馬に出かけた。帽子をかぶり、サングラスをして。

夢の中で見たあの美しい馬に俺は賭けた。少し手が震えたが20万の軍資金を賭けたんだ。

そして……

負けた…。

そして…今…俺は、大金を持って路上に立っている。
人がたくさん集まっている。

パトカーが3台いる。警察官は10人以上か。

俺はついさつき銀行強盗をしたんだよ。けど警察に通報され、あつけなく取り囲まれてる。銃でもありやあ少しは抵抗できるが、あるのは小さなナイフのみ。それとスツカラカンの財布のみ。

まあいつか。刑務所に入ったら、その日の飯には困らない。

まあつまり、そういうことさ。

「動くな！」

「手を上に上げろ！」

テレビでよく見るシーンが俺の目の前で繰り広げられている。嘘みたいだ。

「分かった、分かったよ。じゃあこの（袋に入った）金はどうすりやいい？」

「袋は床に置け！そして手を上げろ！」

「分かったよ……」

俺は現金の入った紙袋を床に置いた。

「よし！そのまま手を上げるんだ！」

警察というのは同じ事を何度も言う。うるさいやつらだ。

「……」

数人の警察官が銃を構えたままゆっくりこちらに近づいてきた。

しかし、その時！

”ヒュン！”

ものすごい速さで、帽子にサングラス、マスクをした男が俺に走りより、紙袋を奪い、これまたものすごい速さで去っていた。

「……！」

「……」

一瞬の出来事に、誰も対処できなかった。

そいつは路地へと消えていった。警察はあわてて追いかけたが、どうやら捕まらなかったらしい。

俺は捕まり、当然有罪となった。刑期は懲役5年。銀行強盗にし

ては短かった。

後で分かったことだが…その男は俺の兄だった！俊足は健在だった。

兄は俺が捕まった一年後、万引きで捕まったらしい。
その時に、あの日のことも発覚したらしい。

兄よ、今度は二人で何かやろうぜ。
なにかでかいことをさ。

いや、やっぱり真面目に働くべきか？
真面目に働いて、いいことあるか？

あの競馬の夢は幻だったのか？

結婚しても、半分は離婚してるってか？

中小企業の社長が100万の金を資金繰り出来ずに困っている。
大企業の社長が100億の借金踏み倒して海外へ高飛び。

世の中どうなってる？それが資本主義の正体か？

つか、まあ…

どっちにしても…要するに…この物語はフィクションなんです。
けど、もしかしたらノンフィクションかも…なわけない！（タモ
さん風に）

おしまい

（後書き）

ありがとうございました。他の作品もよかったら見てください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1783q/>

この物語はフィクションです

2011年1月19日09時33分発行